



稚児行列が彩りを添える

町内で「秋の藤原まつり」開催

奥州藤原氏の栄華をしのぶ「秋の藤原まつり」（平泉観光協会主催）は11月1～3日、町内で開かれました。このうち中尊寺では1日、藤原四代公追善法要が営まれ、町内外の幼児10人の稚児行列が本堂から金色堂まで約300疔を練り歩き、まつりに彩りを添えました。境内では多くの人々が紅葉を楽しみながら愛らしい姿に見入りました。期間中は、町内や近隣市町の団体による郷土芸能などが町内で繰り上げられました。



国保中央会特別功労者表彰受ける

前町国保運営協議会長の佐々木さん(2区)

前町国民健康保険運営協議会長の佐々木秀圓さん(2区)は、長年にわたり国保事業の充実に貢献したとして、国保中央会特別功労者表彰を受賞しました。佐々木さんは昭和62年10月に同協議会委員となり、平成8年1月～令和4年12月に会長を務め、協議会の取りまとめ役として尽力しました。10月23日に青木町長から賞状の伝達を受け、「振り返るといろいろな経験をさせていただいた」と語りました。



地域に伝わる伝統の舞を披露

南部神楽鑑賞会、山形・酒田市からも出演

平泉文化遺産センターで11月4日、南部神楽鑑賞会を開催しました。南部神楽を伝承する県南地域の神楽団体に加え、文化交流協定締結の記念として山形県酒田市などから合わせて6団体が出演しました。

町内からは、郷土芸能体験講座を受講する小中学生と、達谷窟毘沙門神楽が出演。それぞれ「御神楽」と「月見坂の危難」の演目を披露しました。訪れた観客は、団体ごとに特色のある華麗な舞いに見入っていました。

地域福祉の充実と発展誓う

第29回町社会福祉大会

第29回町社会福祉大会(町社会福祉協議会など主催、町共催)は10月24日、町学習交流施設「エピカ」で開かれました。約90人が出席し、ボランティア活動など功労者の表彰や小中学生の福祉体験発表、記念講演などを通じ、地域福祉の充実と発展を誓いました。

町社協の寺崎敏子会長は「より良い地域社会のため、皆さんと頑張りたい」とあいさつ。出席者が「地域共生社会の実現を目指す」とした大会宣言を採択しました。



火災予防を町民や観光客に呼びかけ

全国運動期間に合わせ、消防署員らが啓発活動

秋季全国火災予防運動(11月9～15日)に合わせ、一関西消防署平泉分署(村上智紀分署長)は11月9日、町内で啓発活動を展開し、地域住民や観光客に火災予防を呼びかけました。

分署員ら8人のほか、町観光PRキャラクター「きよひらくん」も参加。観光客らに啓発チラシを配り、火の取り扱いへの注意を促しました。放火を未然に防ごうと、分署員が町内のごみ拾いも行いました。



町民4,175人の署名を町長へ提出

交通安全母の会連合会

町交通安全母の会連合会は10月24日、高齢者を交通事故から守り、飲酒運転の根絶などを誓った町民4,175人分の署名簿を、青木町長に提出しました。

全町で交通安全の意識付けを図ろうと毎年実施しており、会員が訪問や回覧板によって署名を集めました。小野寺祐子会長＝写真中央＝から署名簿を受け取った青木町長は「取り組みは地域の安心、安全につながる」と感謝を伝えました。



地産地消への理解深める

町内の児童が平泉産「金色の風」を味わう

県の最高級米「金色の風」を使った給食が11月9日、平泉、長島両小学校の給食で提供されました。児童たちは、地元産米を味わい、地産地消に理解を深めました。

県一関農林振興センターが企画。平泉小6年生の教室では、生産者の佐々木正樹さん(20区)が、金色の風の特徴や生産への思いを紹介。児童は町内産野菜を使ったおかずと一緒に味わいました。石川遥さん(7区)＝写真手前＝は「甘くてもちもちしておいしい」と満足げでした。



感謝の気持ち込め、丁寧に作業

長島小児童、人権の花運動のプランターを片付け

長島小学校で10月27日、今夏に実施した人権の花運動のプランターの片付けが行われ、1、2年生が人権擁護委員と一緒に、プランターの土を取り除き、汚れを丁寧に洗い落としました。

6月に花苗を植えてから約5カ月、水やりなど花の世話をしながら日々観賞してきました。児童たちは来年も美しい花が咲くよう、感謝の気持ちを込めながら、一生懸命に取り組みました。